

2016 年度台湾 JIP 報告書

大学院 言語教育研究科 齊珊
外国語学部 日本語専攻 アニサ・ビンティ・アブドゥルハリム
外国語学部 日本語専攻 サキナ・ビンティノールバダルッディン
外国語学部 外国語専攻 松原沙紀

派遣先：国立屏東大学

滞在期間：2月19日～3月18日

研修期間：2月20日～3月17日

費用：7万円（生活費、お土産代）

実習時間：50分×6コマ（齊・アニサ・サキナ共同で）

50分×4コマ（松原）

見学時間：50分×38コマ（アニサ・サキナ）

50分×40コマ（齊）

50分×36コマ（松原）

使用教科書：『大家的日本語』（1年生）、『会話に挑戦』（2年生）

1. 研修先について

国立屏東大学は高雄国際空港から車で1時間弱の距離にあり、最寄り駅は屏東駅である。駅まではバスで10分程度である。大学に到着した翌日にオリエンテーションがあり、1ヶ月の予定を確認すると同時に、図書館や寮に出入りするためのカードの手配もしていただいた。授業に関しては、応用日本語学科の1、2年生を主に見学した。

2. 宿泊について

大学内にある寮で宿泊をした。4人1部屋で、1人の実習生と3人の学生（内1人が応用日本語学科の学生）の4人で構成されていた。学年は様々で、実習生4人とも違う学年の学生とともに宿泊した。また寝具については、事前に担当の教員から購入してもらいたいとの連絡があったので、後日大学のセンターにて寝具代を支払った。寮には、机と小さなクローゼット、ベッドが用意されており、生活するには十分であった。4人1部屋ではあったが、みなさん熱心であったため、うるさくて勉強ができないということはなかった。

3. 講義内容（台湾の日本語教育）

2月20日に「台湾の日本語教育」という講義を受け、台湾の日本語学習者は世界で5番目に多いということを知った。特に中等教育・高等教育において日本語を学ぶ人が多い、というのには驚いた。また、日本と台湾の歴史についても詳しく知ることがで

きた。

4. 校外授業見学

私たちは3月8日に放送大学へ社会人向けの日本語教育、3月17日に千葉幼稚園へ見学に行った。放送大学での授業は、主に作文を書いて、間違ったところを教師がピックアップし、みんなで正しい文を考えるという授業をしていた。18時からという時間にもかかわらず、多くの学習者が授業に参加しており、全員が積極的に発表をしている姿を見て、とても感動した。千葉幼稚園では、館内に入ると日本語と英語のみで授業を行う。午前中は日本語のみ、午後からは英語のみといったように分かれている。とてもレベルが高く、園児たちも楽しんで語学を学んでいる様子だった。



5. 校内授業見学

主に見学をした授業を挙げる。

- ・日語会話（1年生）
- ・日語聴力練習（1年生）
- ・日語（1年生）
- ・進階日語会話（2年生）

1年生の日語会話に関しては、2クラスに分かれての授業であるが、それ以外は合同で授業を行う。2年生の進階日語会話も2クラスに分かれて行う。

その他の授業見学

- ・日語交渉興談判実務（3年生）

この授業はディベートの授業で、ディベート大会に参加することを目標にしている。この授業は必須科目ではないため、やる気のある学生が履修している。

6. 教壇実習

・斉、アニサ、サキナ共同 50分×6コマ

- ・日語聴力練習（50分×2コマ）×2回

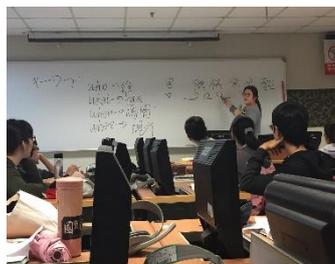
『みんなの日本語』L23, 24、『みんなの日本語』L25
とL21~24の復習



・日語 (50分×2コマ)

『みんなの日本語』L25の導入

3人で50分×2コマを割り振るため、時間配分が難しかった。聴力練習に関しては、初めてのリスニングの実習でどのように進めればよいかわからなかった。しかし、2回目からは慣れてきてスムーズに進めることができた。



・松原 50分×4コマ

・進階日語会話 (50分×4コマ)

「依頼する」の導入、「伝言を頼む・伝える」の導入

1回目の実習では、うまく授業を進めることができず、教案の3分の2で時間切れとなった。しかし2回目はきちんと時間配分ができたのでよかった。



7. 生活について

今回はマレーシアの留学生も参加していたため、食事の件について心配ではあったが、素食の店が多くあり、どの店も美味しかったのがよかった。週末は各々で過ごす時間が多かったが、ルームメイトや授業で関わった学生が様々なところへ連れて行ってくれたので、とても有意義に過ごすことができた。しかしお金の面では、後半お金が足りないという事態が発生したので、次回以降の参加者は多めに準備しておくと思う。

8. 感想

台湾の学生を見て、どの学年も熱心な学生ばかりであることに驚きました。積極的に発表し、自ら会話をしようと試みる姿に私自身、実習している中で何度も助けられました。授業後も趣味の話や今流行っていることなど、学生から話しかけてくれること

が多くて嬉しかったです。今回この JIP に参加して、日本語を教えることの楽しさと難しさを改めて知りました。そのうえで、日本語教師になるという目標が固くなったと感ずることができ、本当に充実した経験となりました。(松原)



今回の実習はたくさんのおこを勉強することができ、とてもよかったです。様々な台湾の文化、観光地などを知ることができ、私にとって掛替えのない経験になりました。それから、この実習に参加した後、自信を持つことができ、日本語の先生になりたいという気持ちも強くなりました。実習を無事に終えることができたのは、自分たちの力だけではなく、指導して下さった先生方、学生たち、様々な人たちのおかげです。もし、また実習の機会があれば、ぜひ参加したいです。また台湾に行きたいです。(アニサ)



この実習を通して、日本語教員になりたいという気持ちが強くなりました。授業補佐では、先生方の教え方を身近に見ることができ、とても貴重な経験になりました。授業の進め方や学生の対応の仕方など多くを学びました。そして教壇実習では、教える

ことの難しさや責任感に改めて気づかされました。しかし、それを乗り越え、学生が理解してくれたときの達成感は忘れられません。この気持ちが私の日本語教師への夢を大きくしてくれました。(サキナ)



台湾の一か月はとても充実した時間でした。不安を抱えながらの教壇実習でしたが、その達成感は今でも忘れられません。休日は、学生たちと一緒に観光し、美味しいものを食べ、中国大陸や日本とはまた違った文化を体験でき、本当に楽しかったです。また機会があれば、台湾へ行きたいです。(斉)

